shindaiwa

電子エンジン刈払機

かるーね RK25F-P RK35F-P

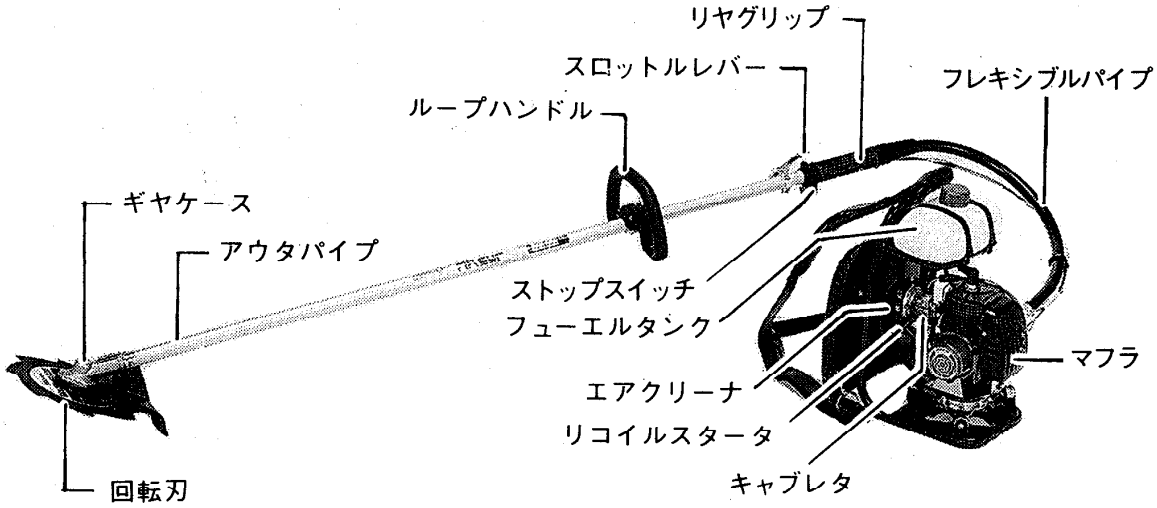
取扱説明書

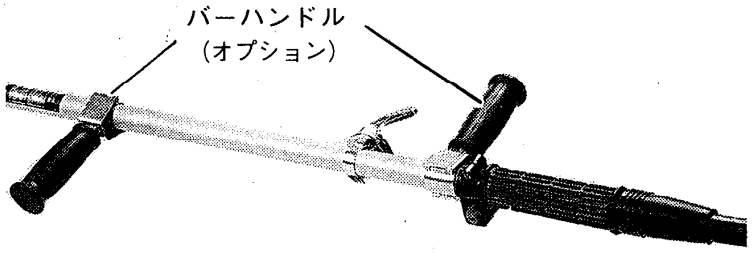
●ご使用前に必ずお読みください。

新ダイワ工業株式会社 本社 〒731-3167 広島市安佐南区大塚西6丁目2-11
TEL 082−849−2001(代)

22054-93111(2-8803)Ⓖ

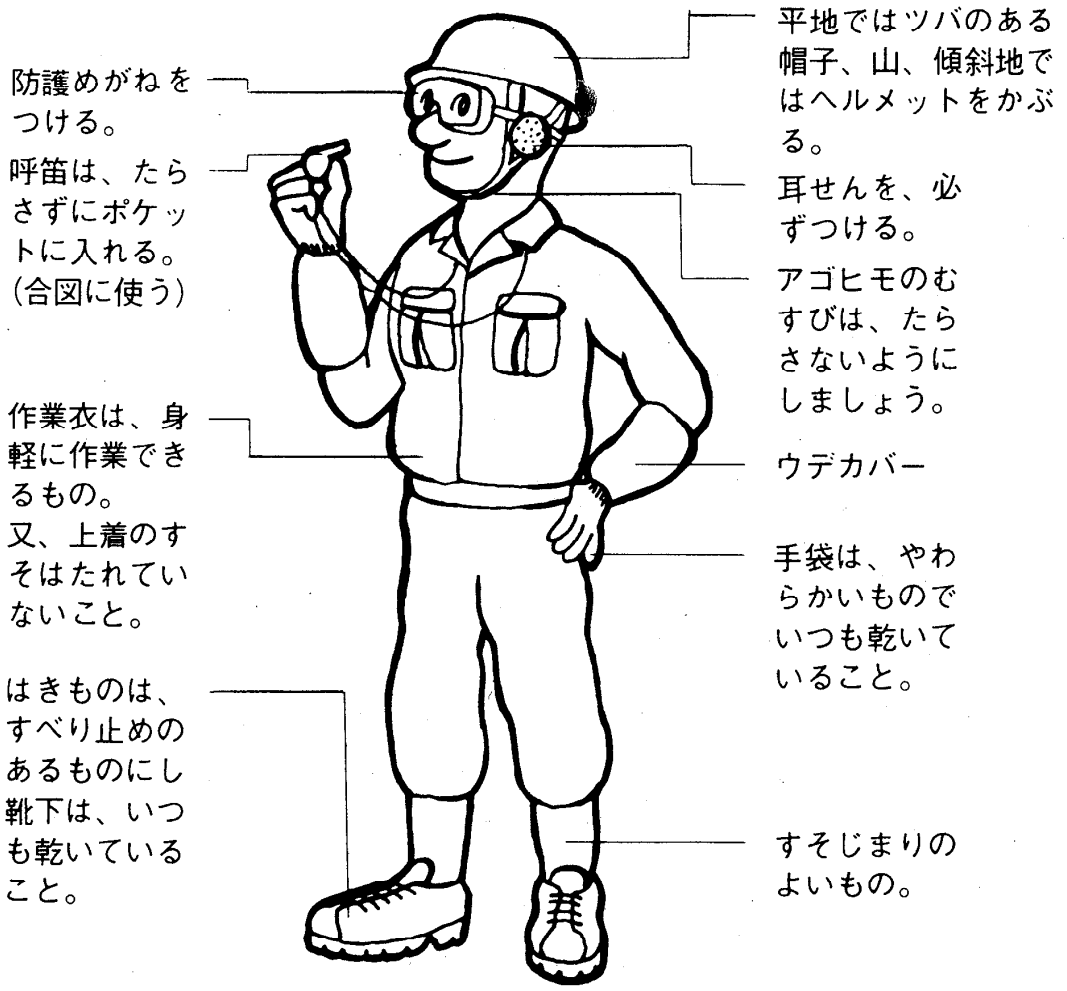
A. 各部の名称





危険防止のために下記のような作業注意事項を守ってください。

1．安全ガードは必ず付けて作業してください。
2．作業中は半径10m以内に他の人を近づけないでください。
3．作業中、移動中は必ず吊りバンドを着用してください。
4．作業前に、刈刃にひび割れ、めくれ、まがり等の異常がないか点検し異常のある刈刃は絶対に使用しないでください。
　　木を切るには必ず鋸刃を使用し、草刈りにはVRクロス刃、VRともえ刃を使用してください。
5．作業中に刈刃が石などに当って衝撃を受けたときは、必ずエンジンを止めて刈刃の点検を行い、異常のある刈刃は使用しないでください。
6．給油の時は必ずエンジンを止めてください。
7．他の場所へ移動する時は必ずエンジンを止め、刈刃にカバーを付けてください。
8．安全作業のため下図の服装を参考にしてください。



B. 主な仕様

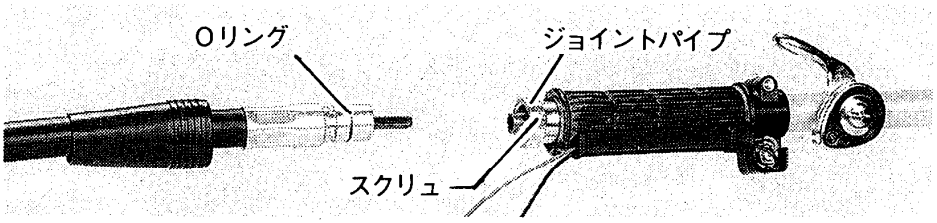
名称・形式		新ダイワRK 25F－P	新ダイワRK 35F－P
伝達方式		自動遠心クラッチ・フレキシブルケーブル スパイラルベベルギヤ	
減速比		1.286	
刃先回転数		4800～7000rpm	4300～7000rpm
刃先回転方向		上から見て左	
本体乾燥重量	エンジン部（青負バンド、燃料を除く）	5.3kg	6.0kg
	操作部（刃、安全ガード、吊りバンドを除く）	2.9kg	
エンジン部外形寸法（長×幅×高）		290mm×300mm×410mm	320mm×300mm×410mm
操作部長さ		2360mm	
エンジン	機種名	新ダイワSK 25F－P	新ダイワSK 35F－P
	形式	空冷2サイクルガソリンエンジン	
	内径×行程	32mm×30mm	36mm×33mm
	総排気量	24.1cc.	33.6cc.
	最大出力	1.4PS	1.8PS
	使用燃料	ガソリン25：2サイクル専用オイル1	
	燃料タンク容量	1.2ℓ	1.4ℓ
	気化器	フロート式	
	点火方式	電子点火	
	スパークプラグ	チャンピオン CJ-8	
	始動方式	リコイルスタータ	
	停止方式	押ボタン式手元スイッチ（防水形）	
	エアクリーナ方式	半湿式、消音形（防滴形）	
標準装備		VRともえ刃 230mm(9″)	VRともえ刃 255mm(10″)
		エンジンマウントホルダ付防振装置 ループハンドル・滑り止め付きグリップ(リヤ) 背当て防振装置 安全ガード 刃物カバー 付属工具一式 アウタパイプ吊バンド アウタパイプスイベル規制機構 巻付防止装置（グラスカバー）	
オプション		バーハンドル 滑り止め付きグリップ(フロント) 防振グリップ(フロント) エンジンスイッチ ごみ詰り防止グリル	

C．組立ての手順

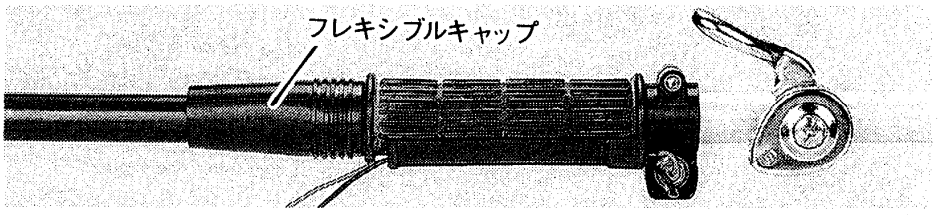
フレキシブルケーブル、安全ガード、回転刃などは取りはずして梱包してありますので、次の要領で正しく組立ててください。

C－1．フレキシブルケーブルの取付け

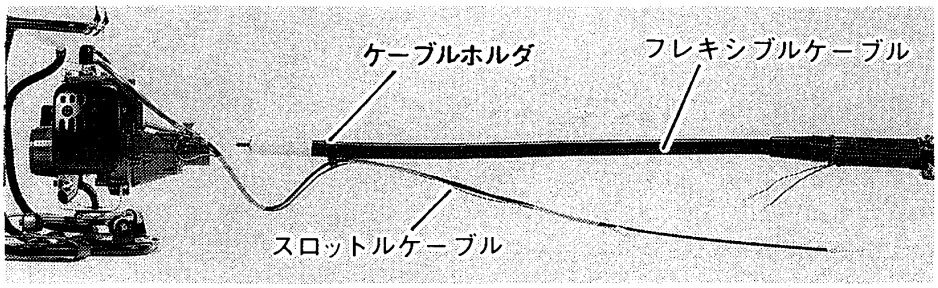
1．ジョイントパイプ部のスクリュを外し、フレキシブルケーブルのOリング側を差し込んでください。スクリュの穴とフレキシブルケーブルの円周溝の深いところを確実に合せてください。スクリュを元通り締めつけて、フレキシブルケーブルが抜けないようにしてください。



2．ジョイントパイプとリヤグリップの間の溝までフレキシブルキャップをかぶせる。



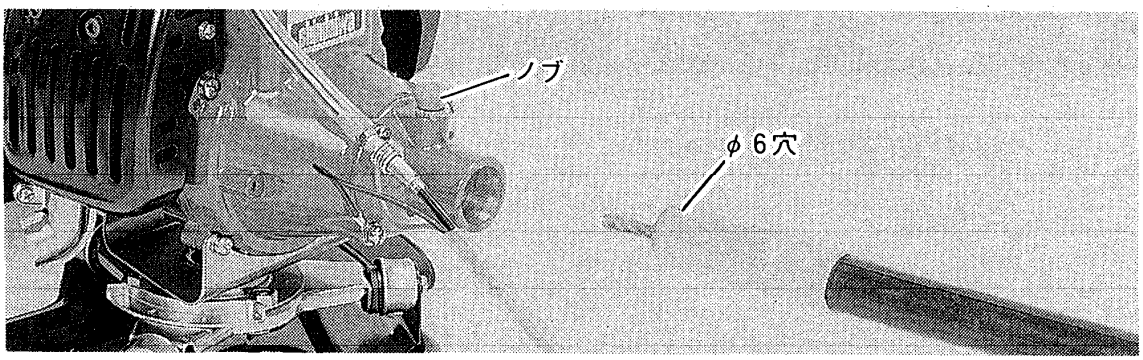
3．ケーブルホルダの穴にフレキシブルケーブルを通してください。



4．フレキシブルケーブルの穴側をエンジンに差し込んでください。リヤグリップを持って回しながら差し込むと楽に入ります。この時にノブを引く必要はありません。

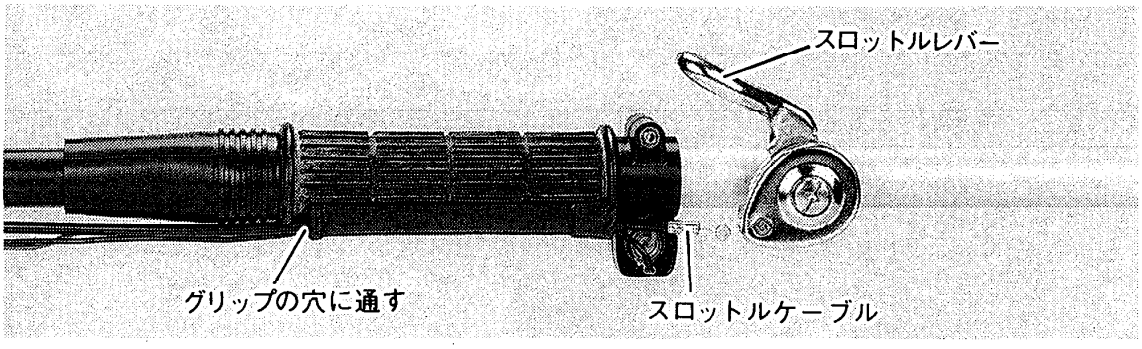
フレキシブルケーブルを奥まで差し込んだらフレキシブルケーブルを回して、穴にピンをロックします。

フレキシブルケーブルを引張ってロックがかかっているのを確認してください。

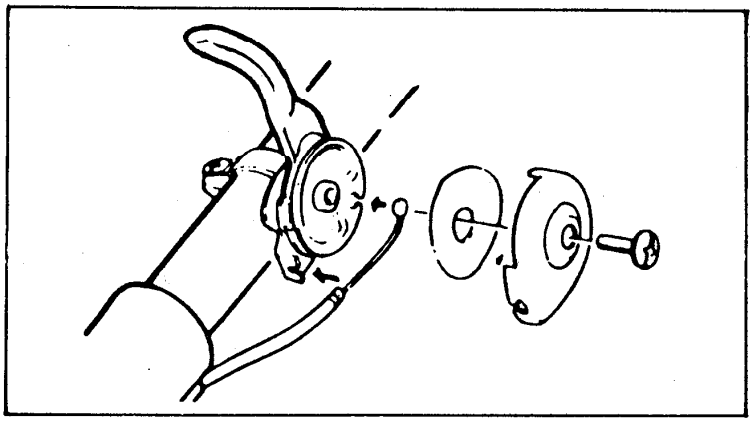


C－2．スロットルケーブルの取付け

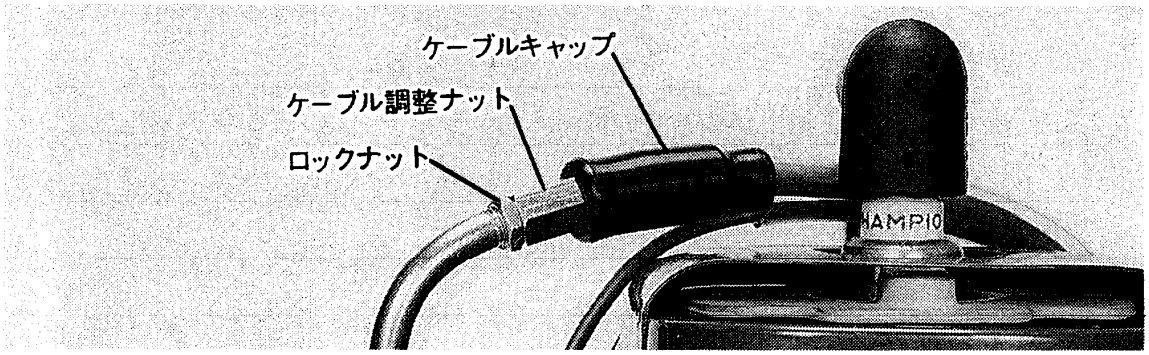
1．エンジンに付いているスロットルケーブルをリヤグリップの穴に通します。



2．スロットルレバーの穴にスロットルケーブルの先端を入れて取付けます。



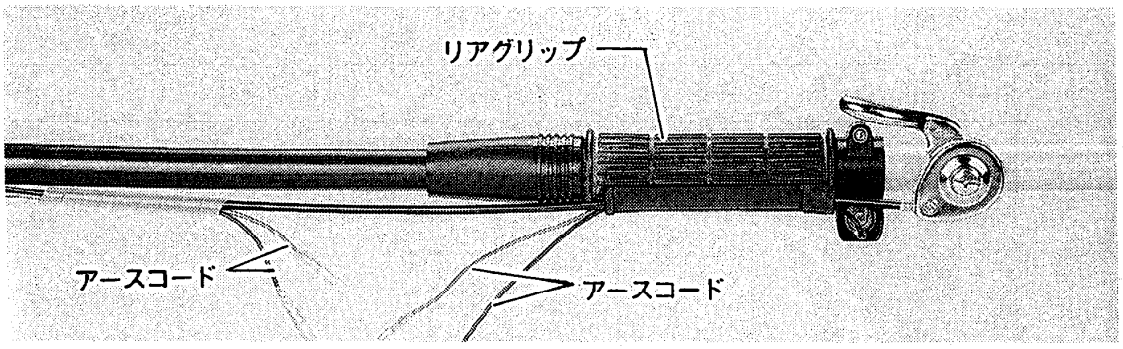
3．スロットルレバーの先端の遊びが5㎜～10㎜になるようにケーブル調整ナットで調整し、ロックナットで固定してください。
調整した後、ケーブルキャップを元通りケーブル調整ナットにかぶせてください。



C-3. アースコードの接続

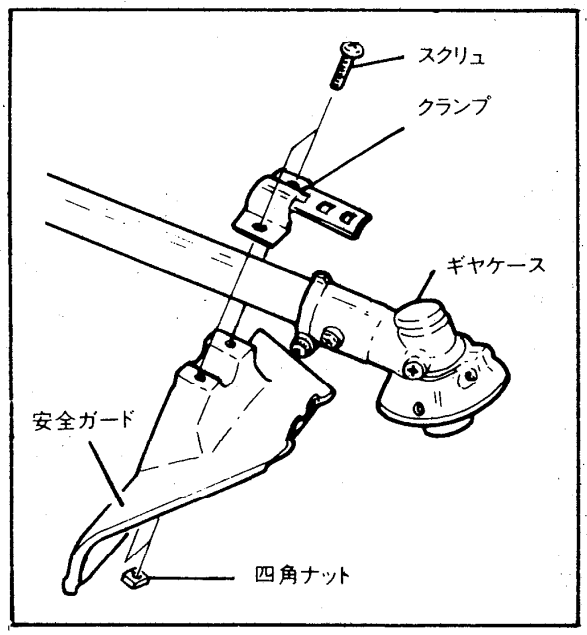
リヤグリップから出ているアースコードをスロットルケーブル側のアースコードに接続してください。

同じ色同志のコードを接続してください。



C－4. 安全ガードの取付け

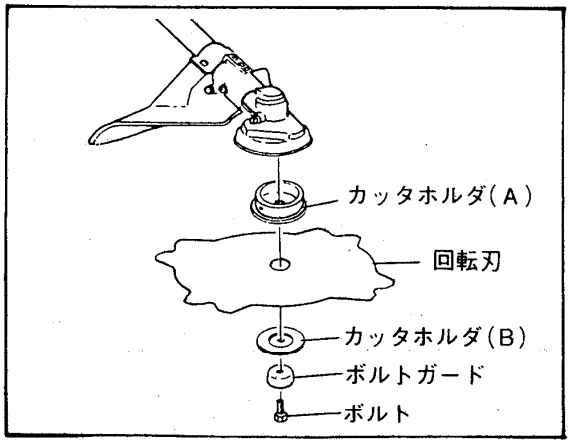
1. 安全ガードをアウタパイプの下から、クランプをアウタパイプの上から合わせます。このときクランプの角穴をギヤケースの突起に入れます。
2. 四角ナットを安全ガード裏のへこみに入れ、スクリュをクラン　側から締付けます。
3. 安全ガードに「ガタ」がないか確認してください。

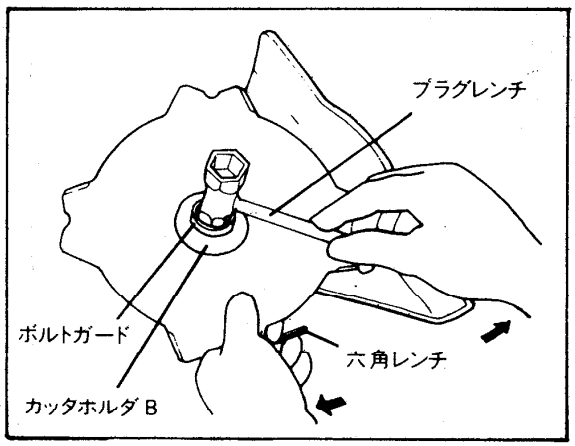


C－5. 回転刃の取付け

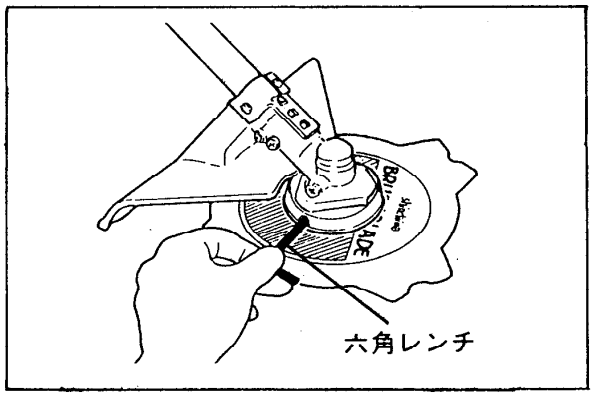
アウタパイプを横にして置くと楽に取付けができます。

1. カッタホルダーＡとＢの間に回転刃を取付け、ボルト（左ねじ）をプラグレンチで締付けます。





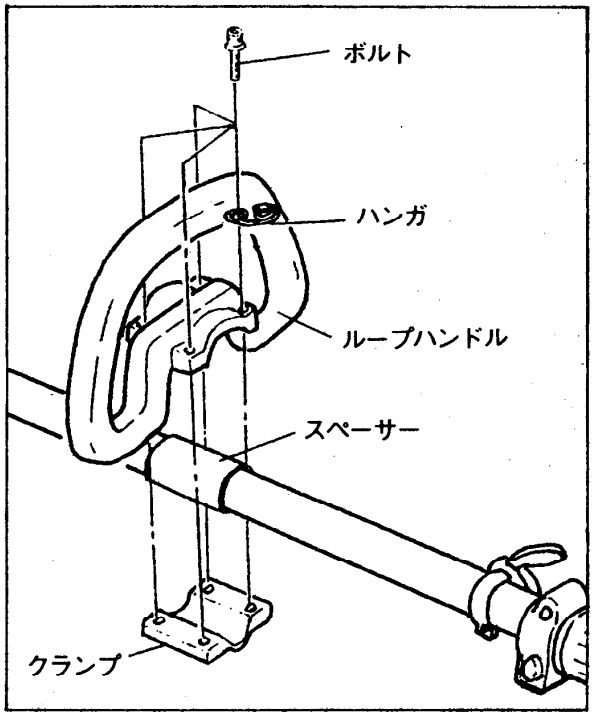
2．回転刃を締付けるときは、六角レンチをカッタホルダーAとギヤケースの穴に通して、まわり止めを行ってください。



C－6．ループハンドルの取付け

1．まず、ループハンドルの4本のボルトをはずして、クランプを離してください。

2．ループハンドルをスペーサの上から、クランプを下から付け、手前、右側にハンガを取付け、4本のボルトで均等に締付けてください。



3．ループハンドルの位置は適当と思われる位置にスペーサをセロテープ止めして設定してあります。 お客様の好みに応じて、アウターパイプ上をずらしてお使いください。

C－7．バーハンドル(オプション)の取付け

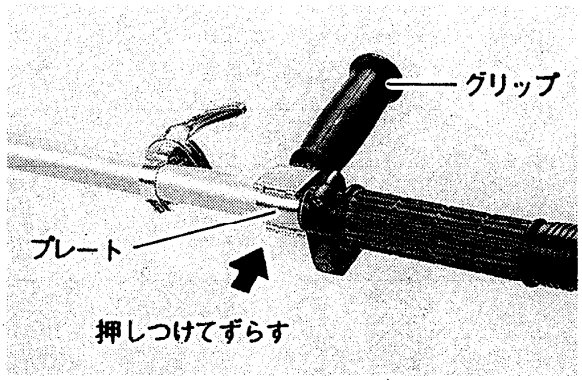
1 ハンドル取付部のプレートを指で押しながら、ずらして外します。

2 グリップのねじは一杯にゆるめておきます。

3 ハンドルの根元をアウタパイプにはめ、プレートを押しつけながらずらしてはめます。

4 グリップを適当な位置に合わせ、グリップのねじを力一杯締めつけます。

このバーハンドルは作業状態に応じて自由に位置や角度が変えられますので、楽な位置に取付けてください。



D. エンジンの始動、停止、調整

D-1. 燃料の給油(混合油)

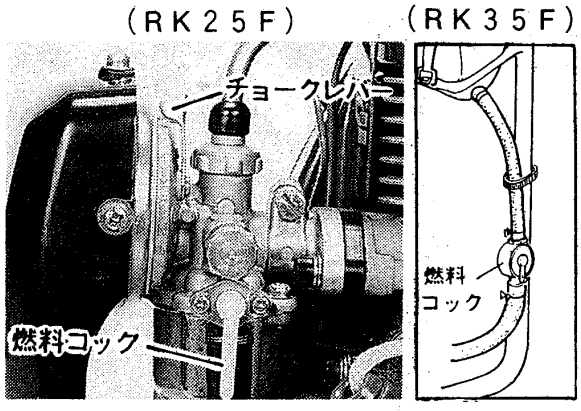
燃料は**ガソリン25**に対して**オイル1**の割合で混合して給油してください。

注) 1. オイルは必ず2サイクル専用オイルを使用してください。
2. 燃料補給や混合する場合は、火気のないところでおこなってください。
3. エンジンが始動すると、回転刃がまわります。思わぬ事故が起きぬよう必ず周囲の安全確認をしてください。

D-2. 始動のしかた

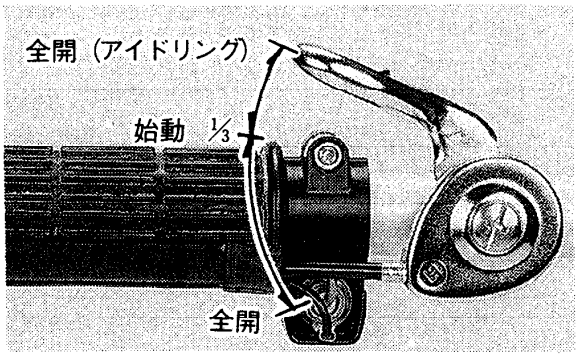
1. エンジンが冷えているとき

1 燃料コックを開き、しばらくおいて燃料を十分にキャブレタに送り込みます。



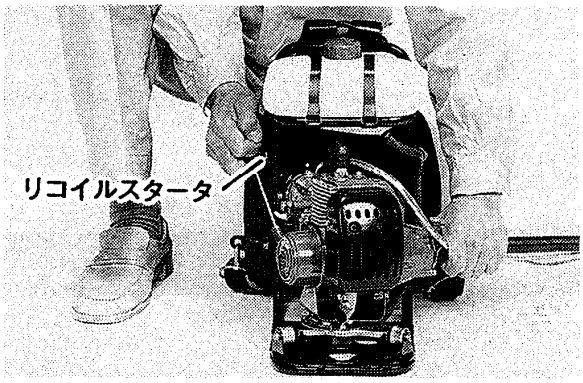
2 チョークレバーを閉にする。

3 スロットルレバーを約⅓引いて始動の状態にします。



4 回転刃が安全ガードにより地面からはなれているのを確認します。

写真のように左手でエンジンを押さえて、リコイルスタータを引く。ツメがかかるまではゆっくり引き、かかって重くなった位置から強く引きます。



注）始動時にスタータロープを最後まで引くとロープの寿命が短くなりますので、できるだけ最後まで引かないようにしてください。圧縮が利いて重くなった位置から勢い良く引けば容易に始動します。

5 爆発音がしてエンジンが始動したら、チョークを徐々に開に戻してください。爆発音がしてもエンジンが始動しないときはチョークレバーを開に戻し再びリコイルスタータを引いて始動してください。始動したらスロットルレバーをもどしてアイドリング状態にしてください。**エンジンがかかると回転刃もまわりますから注意してください。危険のないように始動前には、回転刃を地面から浮かしてください。**

2．エンジンが暖まっているとき

1 燃料コックを開く。

2 スロットルレバーを始動の状態にセットする。(前記 3)

3 リコイルスタータを引く。

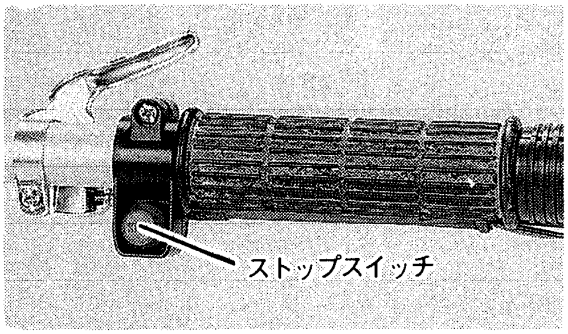
注）1．チョークレバーを閉にして始動するときは、爆発音がしてもチョークを閉にしたまま始動操作をくりかえすと、燃料の吸込みすぎとなります。必ずチョークレバーを開に戻し再始動してください。　(前記 5 参照)

2．始動したら2～3分低速で暖機運転してください。

D-3.停　止

1．スロットルレバーをはなして、エンジンの回転を低速に落とし、しばらくの間運転しエンジンを冷やします。

2．燃料コックを閉じ、ストップスイッチを、エンジンが完全にとまるまで押しつづけてください。



D-4.エンジンの調整

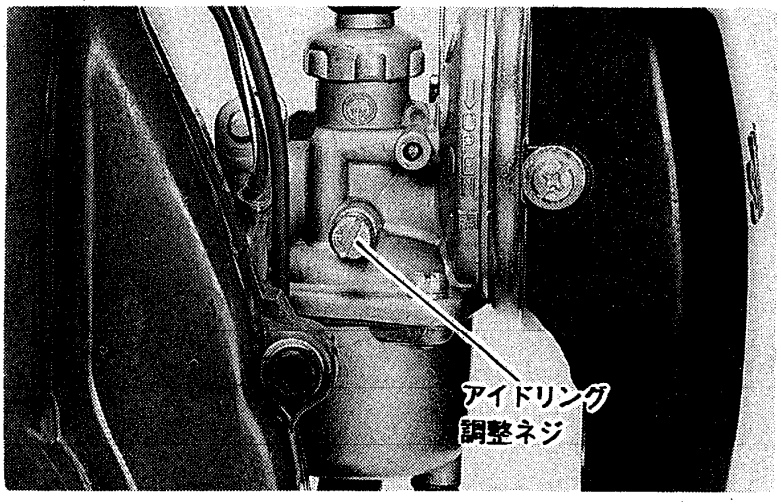
エンジンを始動させて、２～３分低速で暖機運転をした後に調整してください。

1．アイドリングの調整

スロットルレバーをもどしたとき、安定して回転するようにアイドリングを調整してください。

アイドリング調整ねじを
- 右にまわすと→回転が早くなる。
- 左にまわすと→回転が遅くなる。

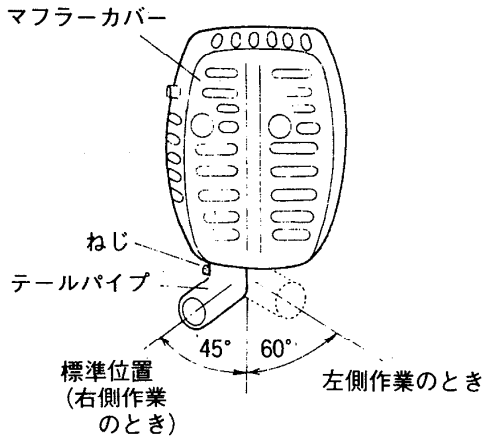
注）低速回転のとき、クラッチが切れて回転刃の回転が止まるようにしてください。



E．操作とその準備

E-1．排気方向の調整

本機は右側作業用にセットしてあります。左側で作業する場合はテールパイプのねじをゆるめて、図のように方向を調整して使用してください。
（調整後は、しっかりねじを締めつけてください。）

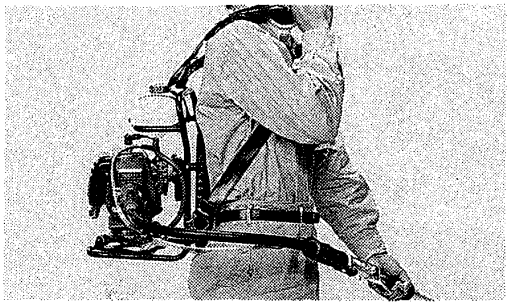


E-2．背負いバンドの掛け方

1．右手でアウタパイプを持ち、左手で左側のバンドを持ち上げ肩に掛けます。

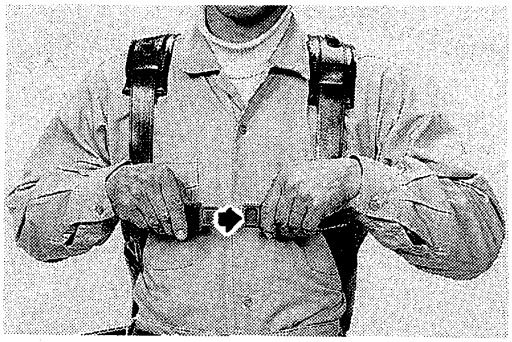


2．アウタパイプを左手に持ちかえ、右側のバンドを肩に掛けます。



3．胸バンドをはめます。

4．背当てが腰のやや上になるように、各バンドの長さを調節して身体になじませてください。



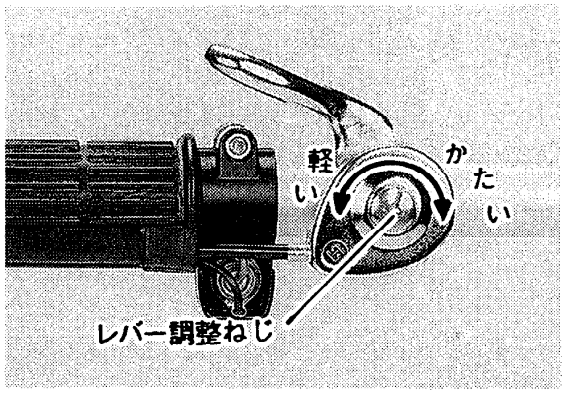
E-3．操作の方法

1．エンジンを始動させ、スロットルレバーを引いてエンジンの回転を上げていくと、自動的に回転刃が回転をはじめます。

2．スロットルレバーを全閉位置に戻せばクラッチが切れ、エンジンはアイドリング（無負荷低速）状態になります。

スロットルレバーの調整

スロットルレバーがひとりでに戻らないよう、適当なかたさにレバー調整ネジを調整してください。

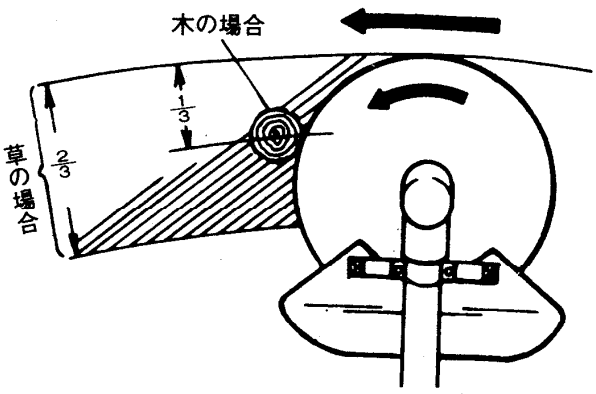


レバー調整ネジを
- 右にまわすと→レバー操作がかたくなる。
- 左にまわすと→レバー操作が軽くなる。

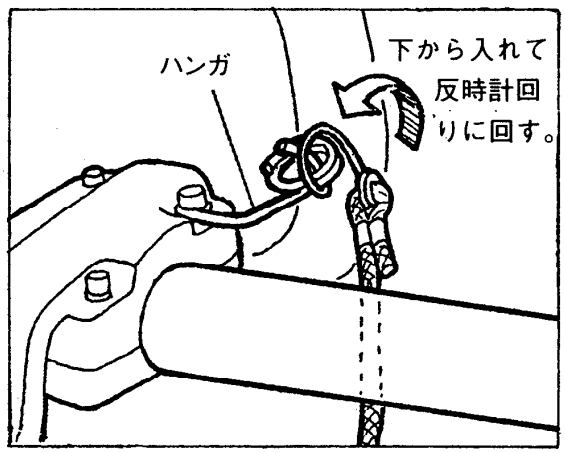
3．回転刃の回転方向は左廻りですから、右側から左側に寄せるように刈ると能率的です。(刈取った草は左側に寄せられますので、広い面積を刈るときには、左側から前進すると刈取った草が次の列を刈るときに邪魔にならず、能率的に作業がすすめられます。)



4．回転刃の切れ味は、先端から⅓あたりが最高です。
のこ刃で木を切る場合などは⅓の位置を使い、草などを刈る場合は先端から⅔の範囲を使うようにすれば刈り残しがありません。



5．作業状態に応じて吊バンドで肩とアウタパイプのハンガを引掛けてつないでください。作業の楽な長さに調整してください。
取はずしは、アウタパイプ側で操作すると楽に取はずしできます。



6．草や木を切らない状態でスロットルレバーをいっぱいに引きますと、エンジンは空ぶかし（無負荷高速）になり、エンジンや刈払機本体のシャフトを破損させる原因となりますので注意してください。

7．クラッチがつながって回転刃が回転していても、低速にしすぎると共振現象による振動を感じることがあります。この状態で作業をしますと、クラッチの摩耗を早めます。又、草なども巻きつきやすいので、もう少し回転を上げて使用してください。

注）1．木を切るときには、強く当てないで徐々に切込んでください。
2．作業中は半径10m以内に他の人を近づけないよう注意してください。
3．運搬のときは必ず回転刃にカバーをかけてください。

F．手入れと調整

F-1．日常の手入れ

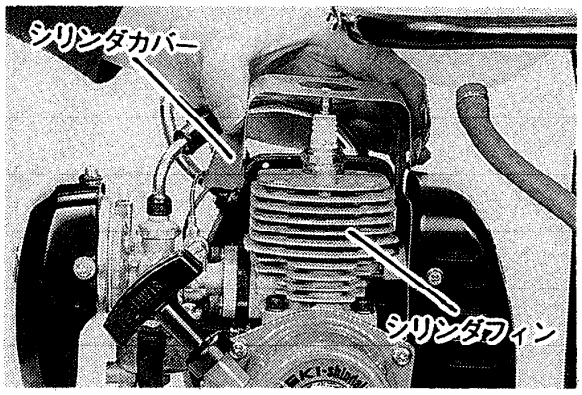
1．刈払機全体の草やホコリを取り除いてください。特に冷却空気の通り路や、エアクリーナ部分の付着物に気をつけましょう。

2．各締付部のゆるみ、あるいは部品の脱落がないかをよく調べてください。（特に回転刃のボルトは、作業前には必ず締付けて確認してください。）

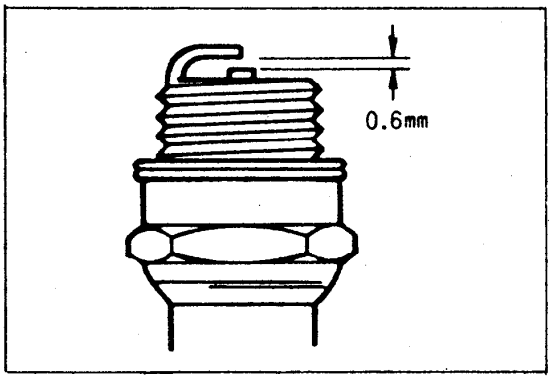
3．燃料やグリースのもれがないか点検してください。

F-2．50時間毎の手入れ

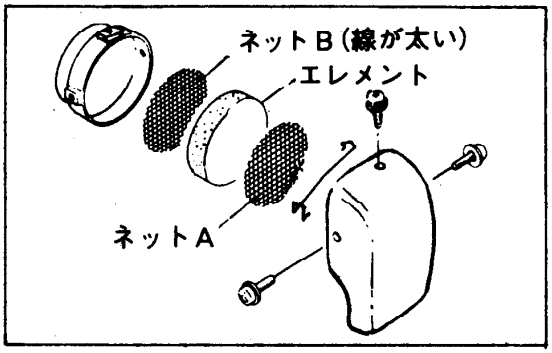
1．シリンダカバーをはずし、シリンダのフィンについている草やゴミを取り除いてください。組付けるときは、クランクケースにキチンとはめてください。



2．スパークプラグをはずし、汚れを落として、すきまの調整をしてください。すきまは0.6mm（ハガキ３枚の厚さ）が適当です。スパークプラグを交換するときは、当社指定の純正品をお使いください。



3．キャブレタからエアクリーナエレメントをはずして、混合燃料でよく洗い、絞ってから取付けてください。



4．フィルタを分解し（図１），フィルタ（A）を取り出し，混合燃料でよく洗い，絞ってから取り付けてください。取付は（図２）フィルタ（A）がシワになったり，奥に入り過ぎたり，出過ぎたりしないよう回しながら差し込んでください。

図 1

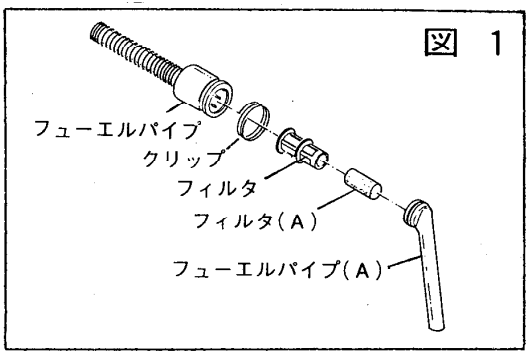
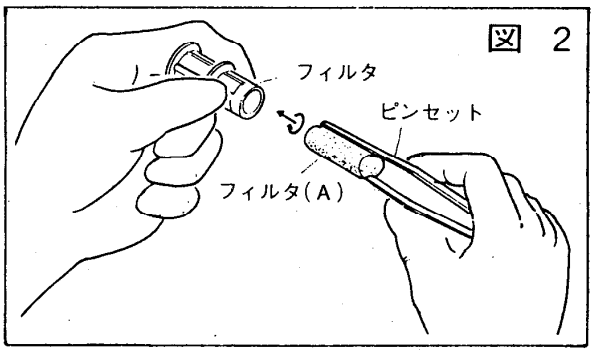
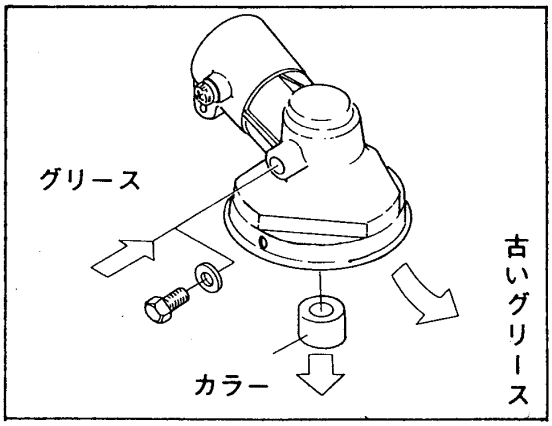


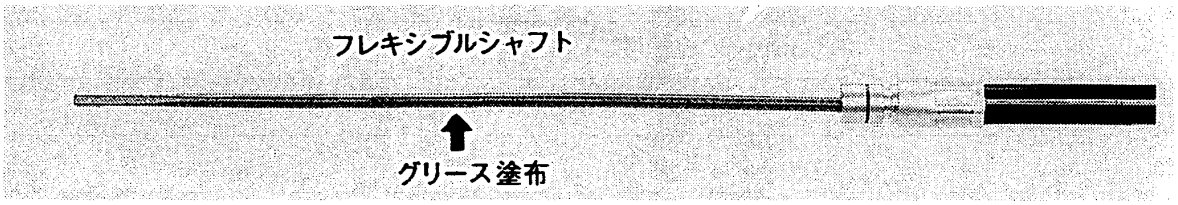
図 2



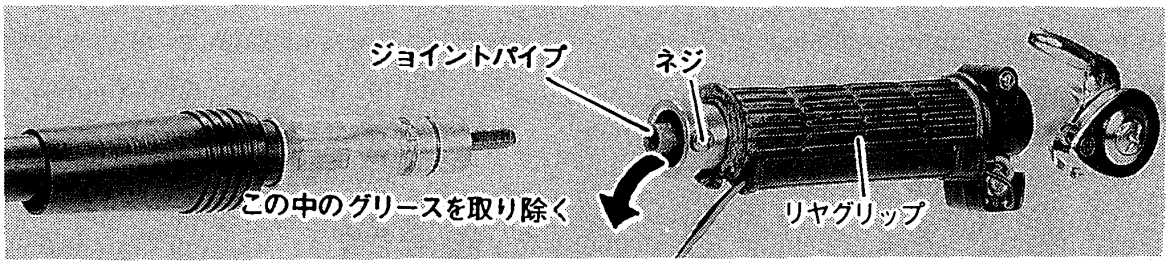
5．ギヤケースの中にグリースを補給してください。ギヤシャフトのカラーを抜いてグリースを補給すると古いグリースは押し出されます。（グリースはギヤケース用純正グリースを必ず使用してください。）



6．フレキシブルシャフトにグリースを塗布してください。
（グリースはギヤケース用純正グリースを必ず使用してください。）



ジョイントパイプからフレキシブルケーブルを抜いてジョイントパイプ内の古いグリースを取除いてください。余分のグリースは発熱や洩れの原因となります。



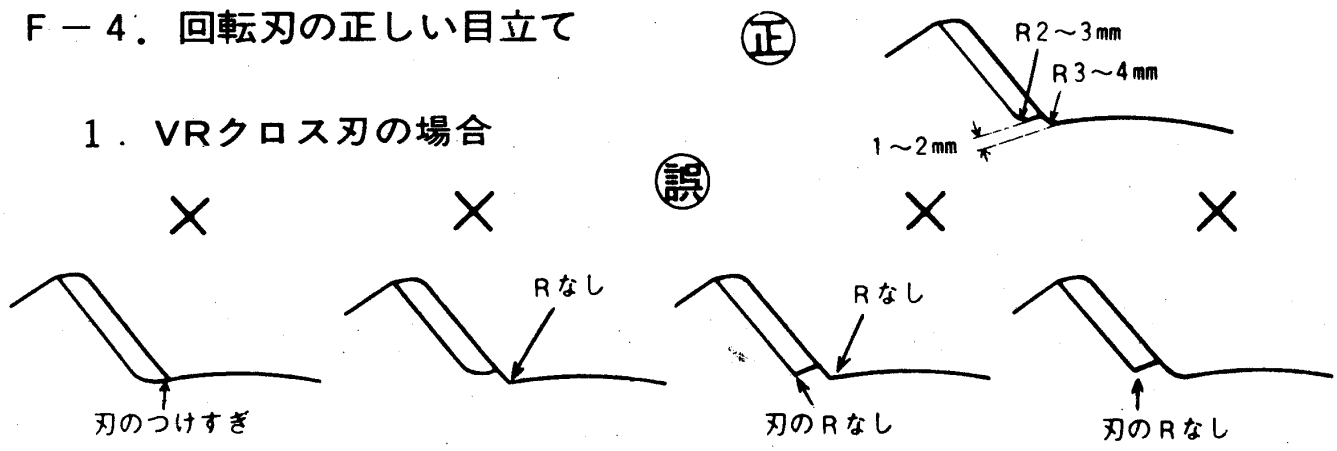
F－3．100時間毎の手入れ

1．各締付部の増締めを行ってください。

2．クラッチシューとドラムの間に油がついていないか点検し、油がついている場合は、オイルの混っていない無鉛ガソリンで拭いてください。

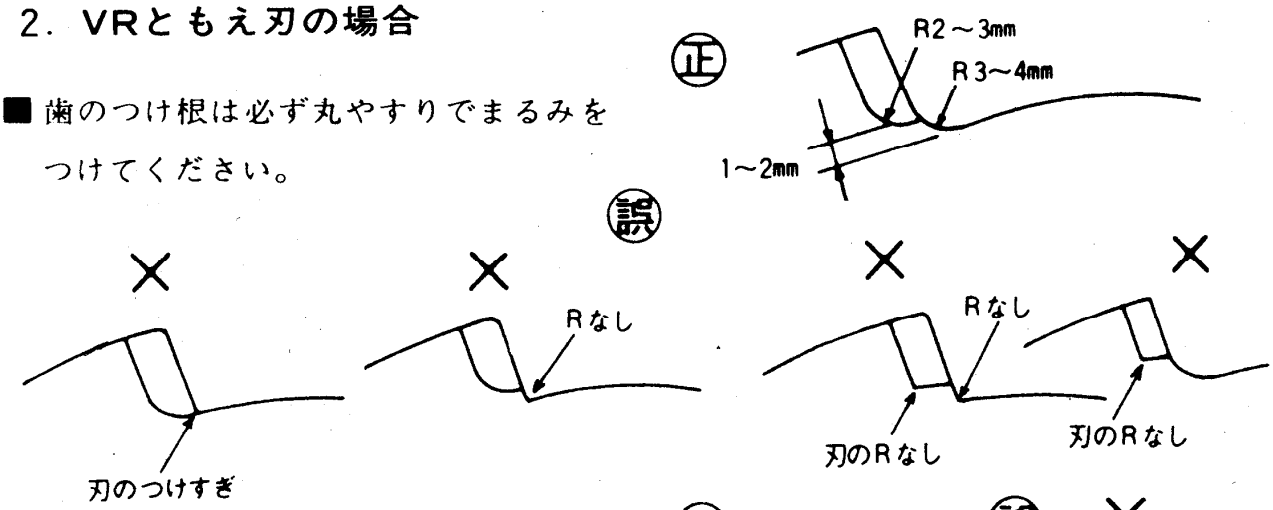
F－4．回転刃の正しい目立て

1．VRクロス刃の場合



2．VRともえ刃の場合

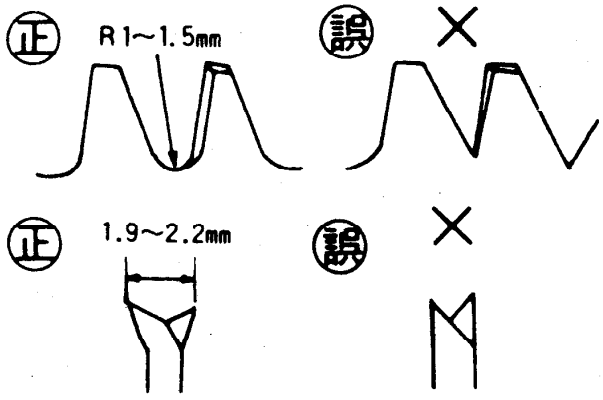
■歯のつけ根は必ず丸やすりでまるみをつけてください。



3．のこ刃の場合

■歯のつけ根は必ず丸やすりで1～1.5mmのまるみをつけてください。

■あさりを不裏均等につけてください。



G．長期保管

長時間使用せずに保管する場合は、次の要領で保管してください。

1．各部は十分に清掃し、金属部分には薄くオイルを塗ってサビを防いでください。

2．燃料タンクからキャブレタ内迄の燃料を全部排出してください。フューエルパイプ内・キャブレタ内の燃料は、次の要領で排出してください。

RK25F

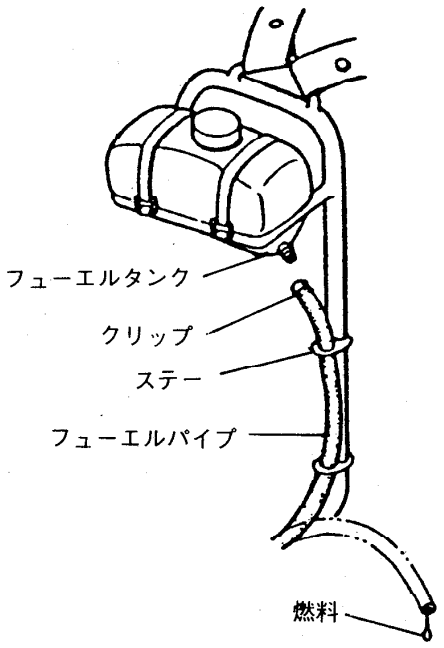
(1) フューエルタンクからフューエルパイプを外す。

(2) クリップを外し、ステーの穴からフューエルパイプを抜く。

(3) フューエルコックを開にして、フューエルパイプを下に向け、燃料を排出する。

(4) キャブレタのフロートチャンバ下部のドレンスクリュを取外し、キャブレタ内の燃料を排出し、元通り組付ける。

(5) フューエルパイプを元通り組付ける。



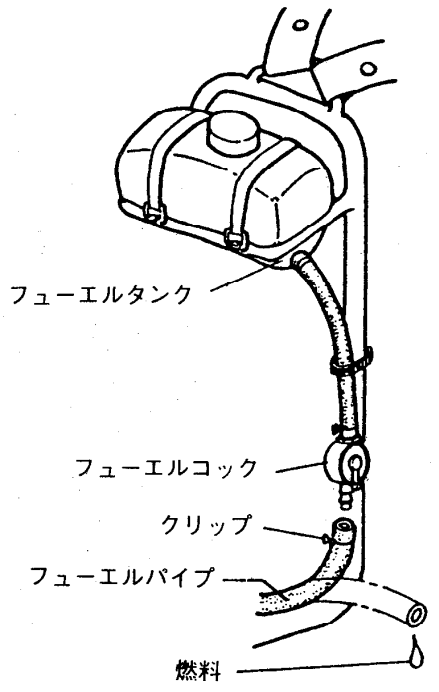
RK35F

(1) 下部のフューエルパイプを抜き、フューエルパイプを下に向け燃料を排出する。

(2) フューエルコックを開にして、上部のフューエルパイプ内の燃料を排出する。

(3) キャブレタのフロートチャンバ下部のドレンスクリュを取外し、キャブレタ内の燃料を排出し、元通り組付ける。

(4) フューエルパイプを元通り組付ける。



3．スパークプラグの穴から少量のオイルをシリンダ内に流し込みオイルがゆきわたるように２～３回リコイルスタータを引いて圧縮のあるところで止めてロープをもどしてください。

4．損傷箇所がある場合は、修理してから保管しましょう。

5．湿気のないところ、ゴミやホコリの付かない所に格納してください。

H．安全作業のおねがい

安全な作業をしていただくために、必ず次の注意をお守りください。

H-1．暑熱、寒冷のときには、長時間の作業は避けてください。また雨の日は、滑りやすいので避けてください。

H-2．火気厳禁

1．ガソリンを使用しますので、刈払機や燃料のそばでタバコやたき火はやめてください。

2．燃料補給時には、必ずエンジンを停止してください。
こぼれた燃料は拭き取ってください。

3．始動は燃料のある場所や、燃料補給の場所から離れて行ってください。

4．燃えやすいものをマフラから出る排気に近づけないでください。

H-3．作業前の点検

1．運転前に回転刃の締付ボルトを確実に締めつけてください。

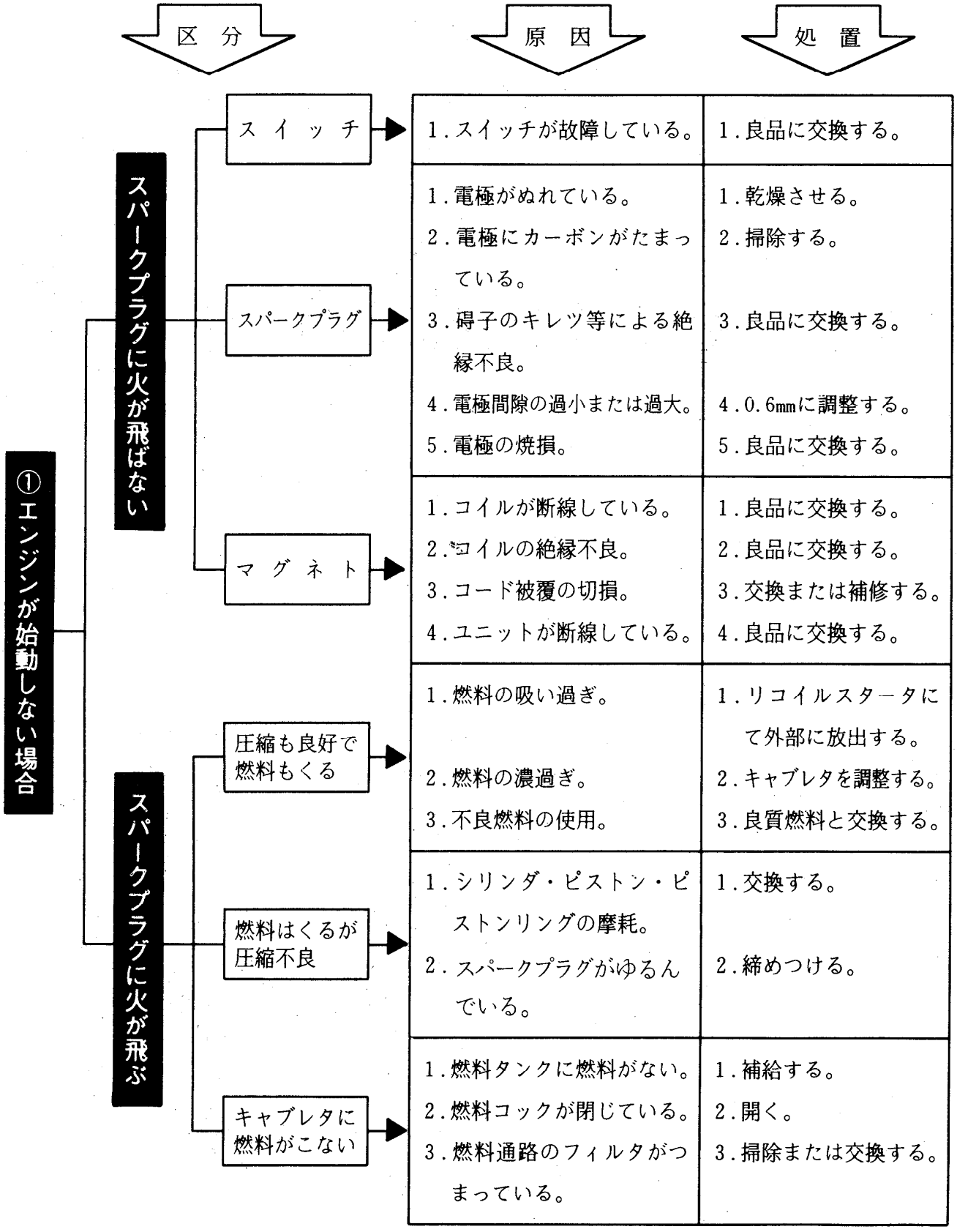
2．運転前に回転刃の「欠け」、「ひび割れ」、「まがり」などの異常がないか点検してください。異常がある場合には絶対に使用しないでください。

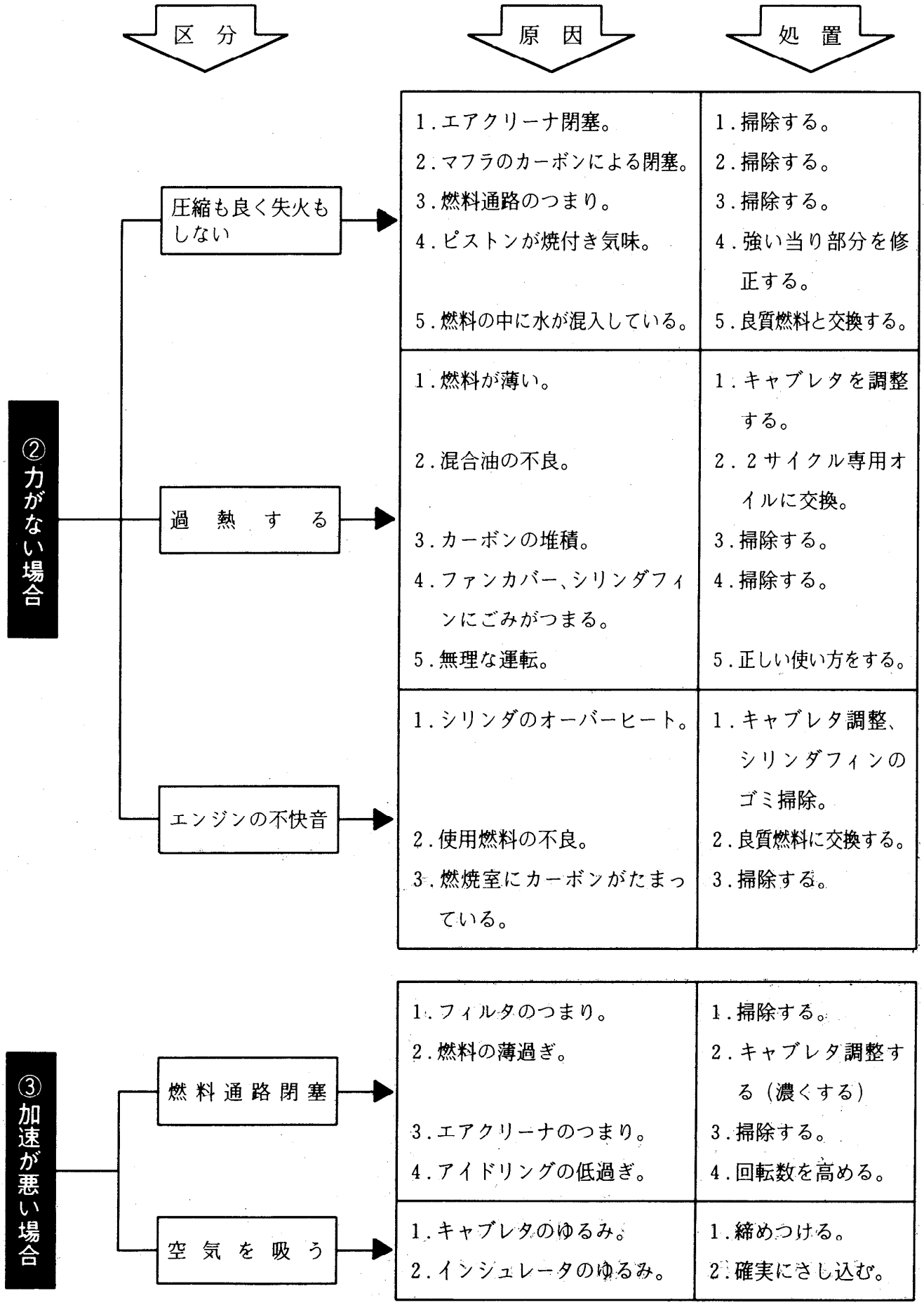
3．回転刃を回転させて、異常な振動がないか調べてください。(異常な振動がある場合は、回転刃がカッタホルダにはまっていないことがあります。

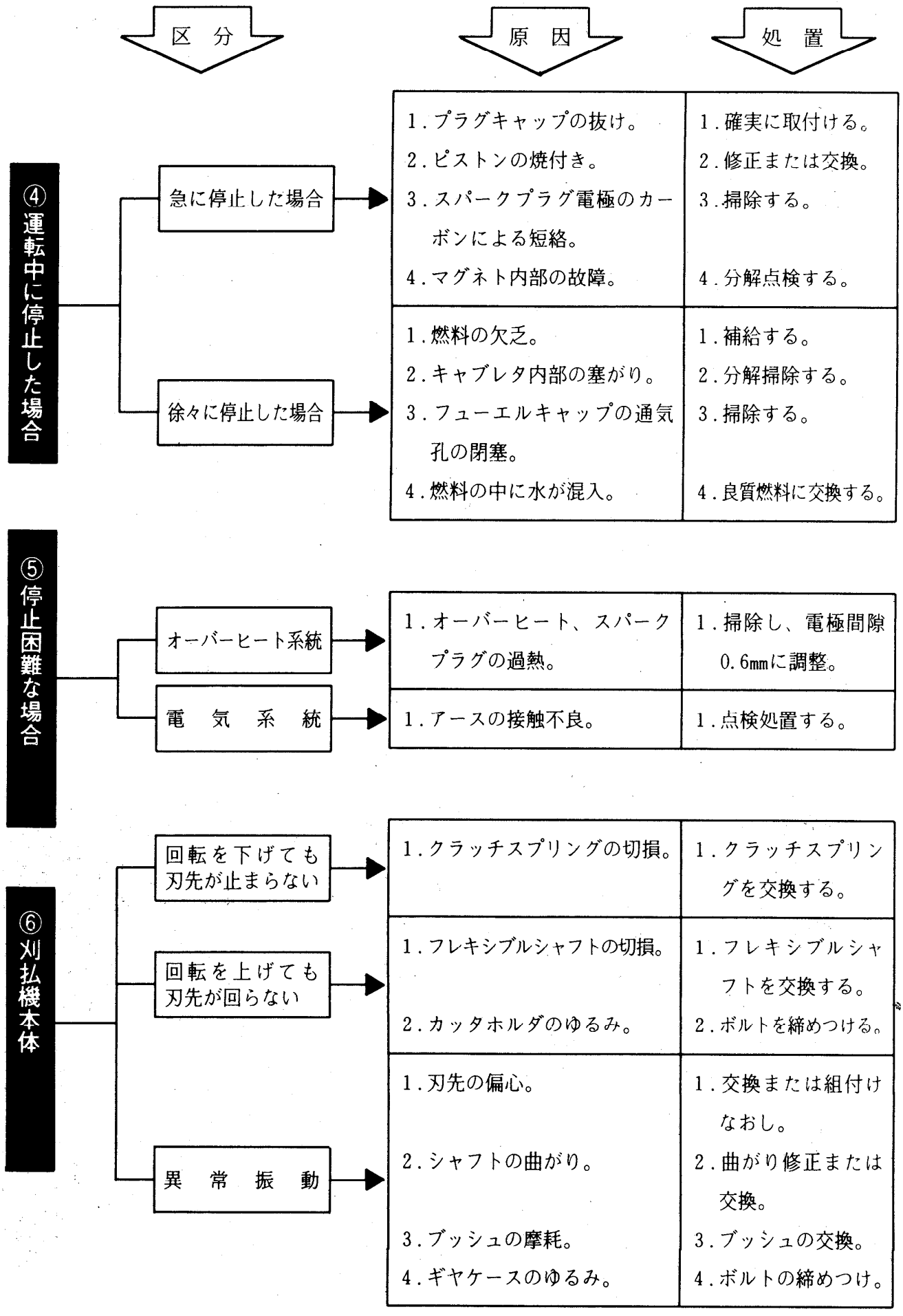
4．回転刃締付ボルトがすり減ってスパナがかけにくいような場合には、必ず新品と交換してください。

5．回転刃脱落防止のスライドピンを取りはずさないでください。
常に正常な状態で使用してください。

Ⅰ．故障の診断と処置


区　分
原　因
処　置
①エンジンが始動しない場合
スパークプラグに火が飛ばない
スパークプラグに火が飛ぶ
スイッチ
スパークプラグ
マグネト
圧縮も良好で燃料もくる
燃料はくるが圧縮不良
キャブレタに燃料がこない
1．スイッチが故障している。
1．良品に交換する。
1．電極がぬれている。
2．電極にカーボンがたまっている。
3．碍子のキレツ等による絶縁不良。
4．電極間隙の過小または過大。
5．電極の焼損。
1．乾燥させる。
2．掃除する。
3．良品に交換する。
4．0.6㎜に調整する。
5．良品に交換する。
1．コイルが断線している。
2．コイルの絶縁不良。
3．コード被覆の切損。
4．ユニットが断線している。
1．良品に交換する。
2．良品に交換する。
3．交換または補修する。
4．良品に交換する。
1．燃料の吸い過ぎ。
2．燃料の濃過ぎ。
3．不良燃料の使用。
1．リコイルスタータにて外部に放出する。
2．キャブレタを調整する。
3．良質燃料と交換する。
1．シリンダ・ピストン・ピストンリングの摩耗。
2．スパークプラグがゆるんでいる。
1．交換する。
2．締めつける。
1．燃料タンクに燃料がない。
2．燃料コックが閉じている。
3．燃料通路のフィルタがつまっている。
1．補給する。
2．開く。
3．掃除または交換する。


区　分
原　因
処　置
②力がない場合
圧縮も良く失火もしない
1.エアクリーナ閉塞。
2.マフラのカーボンによる閉塞。
3.燃料通路のつまり。
4.ピストンが焼付き気味。
5.燃料の中に水が混入している。
1.掃除する。
2.掃除する。
3.掃除する。
4.強い当り部分を修正する。
5.良質燃料と交換する。
過　熱　す　る
1.燃料が薄い。
2.混合油の不良。
3.カーボンの堆積。
4.ファンカバー、シリンダフィンにごみがつまる。
5.無理な運転。
1.キャブレタを調整する。
2.2サイクル専用オイルに交換。
3.掃除する。
4.掃除する。
5.正しい使い方をする。
エンジンの不快音
1.シリンダのオーバーヒート。
2.使用燃料の不良。
3.燃焼室にカーボンがたまっている。
1.キャブレタ調整、シリンダフィンのゴミ掃除。
2.良質燃料に交換する。
3.掃除する。
③加速が悪い場合
燃料通路閉塞
1.フィルタのつまり。
2.燃料の薄過ぎ。
3.エアクリーナのつまり。
4.アイドリングの低過ぎ。
1.掃除する。
2.キャブレタ調整する（濃くする）
3.掃除する。
4.回転数を高める。
空　気　を　吸　う
1.キャブレタのゆるみ。
2.インシュレータのゆるみ。
1.締めつける。
2.確実にさし込む。


区分
原因
処置
④運転中に停止した場合
急に停止した場合
1.プラグキャップの抜け。
2.ピストンの焼付き。
3.スパークプラグ電極のカーボンによる短絡。
4.マグネト内部の故障。
1.確実に取付ける。
2.修正または交換。
3.掃除する。
4.分解点検する。
徐々に停止した場合
1.燃料の欠乏。
2.キャブレタ内部の塞がり。
3.フューエルキャップの通気孔の閉塞。
4.燃料の中に水が混入。
1.補給する。
2.分解掃除する。
3.掃除する。
4.良質燃料に交換する。
⑤停止困難な場合
オーバーヒート系統
1.オーバーヒート、スパークプラグの過熱。
1.掃除し、電極間隙0.6mmに調整。
電気系統
1.アースの接触不良。
1.点検処置する。
⑥刈払機本体
回転を下げても刃先が止まらない
1.クラッチスプリングの切損。
1.クラッチスプリングを交換する。
回転を上げても刃先が回らない
1.フレキシブルシャフトの切損。
2.カッタホルダのゆるみ。
1.フレキシブルシャフトを交換する。
2.ボルトを締めつける。
異常振動
1.刃先の偏心。
2.シャフトの曲がり。
3.ブッシュの摩耗。
4.ギヤケースのゆるみ。
1.交換または組付けなおし。
2.曲がり修正または交換。
3.ブッシュの交換。
4.ボルトの締めつけ。